

8-4-34 自動運転WG

1. 主な活動の記録

自動運転 WG は、自動運転分野に関する最新動向等を調査し、建設コンサルタント（以下「建コン」という）として共通して把握しておくべき事項を研究するとともに、社会課題解決に向け、建コンとして協調して取り組むべき事項等を明らかにすることを目的に活動を行っている。

具体的には、以降に示す調査研究テーマを設定し、それらの調査・整理を通じ、建コンとして取り組むべき課題等を明らかにすることとしている。また、より理解を深めるために、自動運転の社会実装先進地域の視察勉強会等を適宜実施している。

2. 実績報告

6回のWGを開催し、関係する技術委員会、情報委員会から選出の委員を中心に計10名により、主に以下の活動を行った。

(1) 調査研究テーマの調査推進

a) 国の政策動向

自動運転分野のロードマップを示してきた「官民ITS構想・ロードマップ」を発展的に継承したデジタル庁の「デジタルを活用した交通社会の未来2022」に加え、SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）（内閣府）、「RoAD to the L4」（経産省、国交省）、デジタルライフライン全国総合整備実現会議（経産省）等の動向について調査した。

b) 車・通信・高精度地図等の動向

自動運転車の開発状況、使用される通信形態、高精度三次元地図等の動向について調査した。

c) 道路空間・自動運行補助施設等の動向

国交省における「自動運転に対応した道路空間に関する検討会」「自動運転インフラ検討会」等について調査した。

d) まちづくり・公共交通との関係

国交省都市局の「都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会」等での検討動向を踏まえ、自動運転によるまちづくり・公共交通との関係等について調査した。

e) 制度設計の動向

自動運転社会に対応した関係法令の改定、関係交付金・補助制度等の動向について調査した。

f) 地域実装・提供サービスの動向

全国各地で行われている主要な地域実装の事例を調査・整理した。

g) その他の関連動向

NEXCOの取組み動向に加え、関連領域として「空飛ぶクルマ」の動向等について調査した。

(2) 社会実装先進事例の視察

上記f)の地域実装の動向調査を踏まえ、路線バスとして一般的な大きさの小型バスを利用して通年運行している石川県小松市、民間企業主体によりレベル4で定常運行している羽田イノベーションシティの事例の視察（体験乗車、運営関係者との意見交換等）を行った。

(3) 今年度活動実績

前年度に続きWG活動は原則Web会議にて行った。

- ・第1回WG 令和6年 4月25日（木）
- ・第2回WG 令和6年 6月27日（木）
- ・第3回WG 令和6年 8月22日（木）
- ・第4回WG 令和6年 10月24日（木）
- ・視察勉強会（小松市）令和6年11月15日（金）
- ・第5回WG 令和6年 12月26日（木）
- ・第6回WG 令和7年 2月27日（木）
- ・視察勉強会（羽田）令和7年3月13日（木）

3. 次年度の活動について

(1) 調査研究テーマの調査推進

変化の著しい本分野の特性に鑑み、各テーマ領域を最新情報へ更新を行いつつ、海外動向等にも調査範囲を拡大する。

また、令和6年度に実施した2箇所の視察調査については報告書を作成し、協会内で共有する。

(2) 視察勉強会等の開催

先進事例などの視察勉強会を引き続き行い、地域実装の課題やその解決方法、成功への鍵などを探る。また、有識者等による講習会の開催も検討し、自動運転分野における最新動向の把握や、調査研究テーマのとりまとめにおける補遺とする。

（自動運転WG WG長 市川 博一）